

事業名 朝日軍道復元事業



基本コース__朝日軍道を復活する会

－ 1 . 朝日軍道について

「幻」と言われる朝日軍道

- 鱒渚から長井市草岡まで朝日連峰の峰々を越える65 kmの道
- 上杉家が会津に移封され、庄内が飛び地に
⇒ 軍勢が往来するため開削(1598)
- 関ヶ原の戦で負けた西軍側だった上杉家が庄内を失う
⇒ 軍道としての役割を失う(1600)
- 朝日連峰へは現在のルートに移行
⇒ 三角峰から鱒渚までの道は藪



0. 朝日軍道を復活する会について

【団体設立の経緯】

- ・ 「朝日軍道」の存在が語り継がれていた
- ・ 会長が十数年前から復活を模索
- ・ R5「大泉地域ビジョン」に朝日軍道の活用が盛り込まれる
- ・ R5大泉中学校・大鳥中学校で6年教鞭をとった佐々木勝夫氏の歴史講座「幻の朝日軍道」が開催される
- ・ 会長が発起人となり受講者を中心に会が誕生
コミセンの事務局がコーディネート

【活動実績】

- ・ 実績も資金もない⇒まち活の事業がなければ何もできなかった

1. 取り組みの背景・事業目的

【実施背景（地域特性・その他）】

旧朝日村大泉地区：鶴岡市の最南端に位置する山村

- ・かつて賑わった観光資源がある
 - 朝日連峰、摩耶山、八久和・荒沢ダム
- ・山林との関わりや営みが途絶えつつある
- ・伝統食など名人の技を地域で受け継ぐ取り組みがある
- ・地域ビジョン策定⇒
「幻」と言われている「朝日軍道」を再認識

【事業目的】

- ・地域活性化の新しい舞台を作る（ハード）
- ・他から地区を訪れ住民と交流する機会を作る（ソフト）

2. 実施計画

【ルート調査と刈払い】

- ・精通者の案内でルート設定
- ・刈払い実施

【シンポジウム】

- ・住民に軍道の復活を周知
- ・軍道を活用した地域振興の方向を示す

【ドローン測量と空撮】

- ・トレッキングコースとして借地(国有林)するため測量
- ・伝聞や資料での存在から、映像で確認できるものにする

地区に3発電所を持つ山形県企業局鶴岡電気水道事務所が協力

令和7年度 コースの完成

令和8年度 イベントの開催

3-1. 実施状況：ルート調査



【実施内容】

開催日：令和6年9月23日（月）
10月5日（土）

場所：花戸林道から猿倉山

参加者数：延べ8名

内容：花戸林道岩魚沢登山口から
刈払いルートをマーク
地元のマタギに確認して
もらいルート決定

3-2. 実施状況：刈払い



【実施内容】

開催日：令和6年10月12日（土）

場所：花戸林道から猿倉山

参加者数：8名（業者3名）

内容：花戸林道岩魚沢登山口から猿倉山頂まで3.5kmのうち2.5kmの登山道を整備
残りは日没により断念



3-3. 実施状況：シンポジウム



【実施内容】

開催日：令和6年10月27日（日）

場所：朝日南部コミュニティーセンター

参加者数：30名

内容：「地域の魅力再発見」

活動報告

講演

「ちょっと変わった

地域

興しのかたち}

大沼 香 氏

パネルディスカッション

小野寺 良寛 氏（古道案内）

長南 里香 氏（新聞記者）

田中 嘉 氏（移住者）

佐藤 正 氏（会長）



3-4. 実施状況：ドローンによる測量と空撮



【実施内容】

開催日：11月10日（日）

場所：花戸林道から猿倉山

参加者数：3名

内容：刈払いした登山道に沿いドローンのGPSを用い測量
位置情報によりドローンを飛行させ空撮し動画を作成



4. 事業の成果と今後の課題

【事業の成果】

- ・新たなトレッキングコースが誕生
手軽な半日コース、眺望、ブナ林、炭焼窯の跡、金峰山修験
- ・シンポジウムにおいて地域の宝を再認識 歴史、山里の暮らし、食
- ・他の地域から人や情報が集まり始めた
地区に初めて関心を持ち訪れたい人々、軍道に関する資料の提供等

【今後の課題】

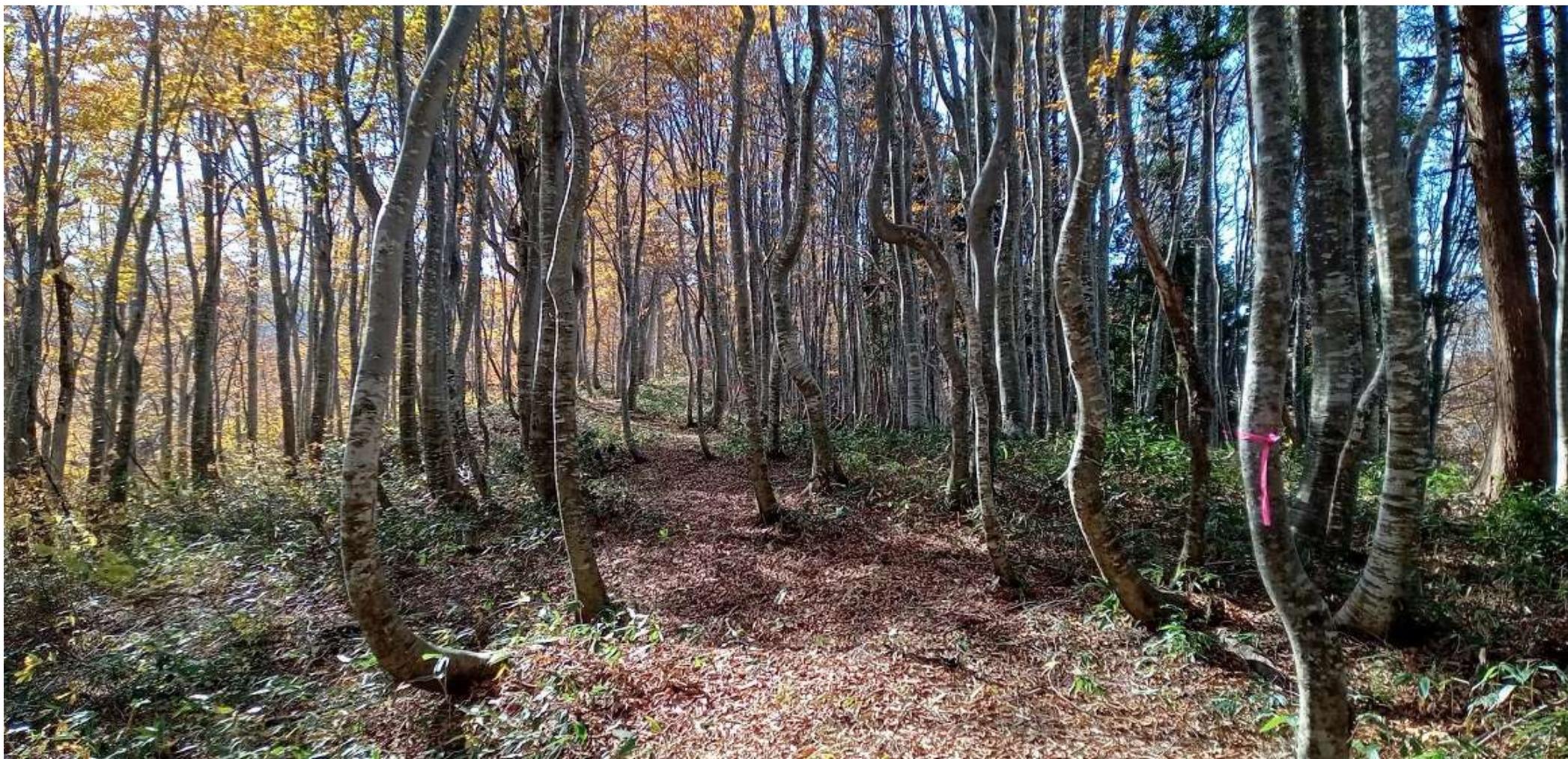
- ・猿倉山までのコース完成と借地 案内板等の設置（令和7年度）
- ・猿倉山から先の以東岳までの復元（5～10年後）
- ・トレッキングに食文化などを加えたイベントの検討（令和7年度以降）

地区の人が技を発揮 ⇒ 訪れた人と交流を深める

最後に・・・

会の活動をコーディネートしていただいた

コミセンの山口さん、伊藤さんに 感謝!!



標高800M 立谷沢川源流部

一緒に歩いてみましょう！